

平成 30 年度 F 工房活動報告書

1. 学生ファシリテータの養成

1-1. 学生ファシリテータ（学ファシ）の人数

	学ファシ					
	4年次	3年次	2年次	継続者	新規	合計
第8期	7名	20名	31名	24名	34名	58名
第9期	7名	17名	28名	22名	30名	52名

※翌年度の年次で記載

第9期学ファシは第8期に比べると2年次生、3年次生、継続学ファシ、新規学ファシの人数が2～4名ほど減少している。4年次生の人数については変化が見られない。

なお、第9期学ファシ52名のうち5名の学ファシが授業や部活動、就職活動などとの両立が困難となったことを理由に活動の辞退を申し出た。さらに2名は研修期間中に連絡が取れなくなるなどして登録から除外する対応を取ったため、平成31年3月末日時点で45名の登録となっている（第8期も活動期間中に8名の辞退者が出ている）。

1-2. 第8期の活動

■ファシリテーション実践

	タイトル	日程・期間	概要
1	新入生向け 学部オリエンテーション への参画	平成30年3月	理学部、情報理工学部、外国語学部、文化学部で開催されている新入生向けオリエンテーションプログラムの運営に携わった。
2	「自己発見と大学生活」 運営支援への参画	平成30年4月～7月	学ファシが28クラスに分かれ、全15回の授業運営に携わった。担当教員とともに、アイスブレイクの運営や大学生活に関する話題提供グループワークの支援などを担った。

「自己発見と大学生活」（以下、「自己大」）期間中における学ファシ支援については、昨年度に引き続き、担当クラスを越えた意見交換の機会としてユニットミーティングを設定した。

■ふりかえりの集い

第8期学ファシが活動を通じて得られた学びや気づきを確かめることを目的に、「学ファシふりかえりの集い」を実施した。第7期に引き続き、授業運営における最も身近な協働のパートナーである「自己大」担当教員から学ファシに対するフィードバックコメントを集め、学ファシに共有した。

■その他:「初年次ポータル科目における上級生サポーターの役割と機能-学生の成長シナジーと効果的な科目マネジメント-」への参加

2018年9月10日(月)に開催された明星大学・本学との研究交流会に学ファシ12名が参加した。当日は、両学の関係者および学外の大学関係者約50名が集まり、両学の初年次ポータル科目の事例報告および参加者同士の意見交換を行った。参加した学ファシのうち1名も、活動の内容や活動を通じた自身の経験・成長について発表した。学ファシからは、参加者との意見交換を通じて「これまでの活動について振り返ることができた」「活動上の悩みに対してヒントが得られた」といった声が聞かれ、有意義な機会となった様子であった。

1-3. 第9期の活動

■募集

	タイトル	日程	概要	参加者 合計
1	募集説明会	9月27日(木)、 28(金)、10月3日 (水)、9日(火)	学ファシ応募希望者を対象に、学ファシ活動の概要や申込み方法等について説明した。	60名
2	学ファシによる相談会	10月4日(木)	継続学ファシの有志5名がプロジェクトチームを組み、学ファシ応募希望者の疑問を解消するための相談会企画を実施した。	2名

第9期の募集説明会は合計3回の開催を予定していたが、台風による休校に伴い日程変更と追加で開催したため、合計4回の開催となった。急な日程変更や追加開催の影響からか、昨年度より参加者が減少した。結果的に、30名の新規学ファシ申込みがあった。「学ファシによる相談会」は第8期から引き続き取り組みであり、コーディネータの呼びかけのもと集まった学ファシでチームを結成し、企画準備や当日の運営を担った。2名の参加者の内、1名が応募に繋がった。

■研修

	タイトル	日程	概要
1	新規活動者対象 オリエンテーション	10月26日(金)	新規学ファシを対象に、学ファシ活動の概要や、活動する上で必要なルール・注意点等を共有した。
2	継続活動者対象研修	11月5日(月)	継続学ファシを対象に、先輩としての心がまえを学ぶ機会を設けた。また、継続学ファシは研修合宿においてテーブルファシリテータとして見本を見せることとし、そのための訓練を行った。
3	研修合宿	12月1日(土)、 2日(日)	学ファシ全員の顔合わせとファシリテーションの基礎を理解することを目的に合宿を行った。 特に新規学ファシは、継続活動者のテーブルファシリテータとしての振る舞いを

			見て学び、継続学ファシは自身の経験をアウトプットすることでさらに深い学びを得ることを目指した。
4	ファシリテーション勉強会	12月12日(水) 1月10日(木) ※どちらかの日程に参加	新規学ファシがテーブルファシリテーションを実践し、自分なりのコツを掴むことを目的に、継続学ファシは新規学ファシへアドバイスをすることでファシリテーションについてさらに理解を深めることを目的に、勉強会を行った。
5	「自己大」事前研修	① 2月8日(金) ② 3月18日(月) ③ 3月22日(金)	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、3回の研修を実施した。 ① 「自己大」の教育目標・概要の理解、授業プログラムであるポスター作成のための準備を行った。 ② ポスターセッションの体験、授業プログラムの運営体験を行った。 ③ 授業プログラムの準備、授業支援へ向けての意気込みを宣言した。

「継続活動者対象研修」「研修合宿」「ファシリテーション勉強会」の一連のファシリテーション研修と3日間の『自己大』事前研修は、第8期を踏襲する形で第9期も同様に実施した。

F 工房スタッフが第8期学ファシとかわる中で、第8期学ファシは小グループのファシリテーションが苦手であると感じた。このことから、第9期学ファシの一連のファシリテーション研修では小グループのファシリテータ(テーブルファシリテータ)として適切に振る舞えるようになることを目指した。研修を実施した結果、学ファシの一部にはファシリテータとしての望ましい振る舞いが浸透したが、全員ではなかった。一部の学ファシにしか浸透しなかった要因として、学ファシの多くは「自己大」の授業支援者をファシリテータ像としてもっており、それは本来のファシリテータ像とは少し異なる像であることが考えられる。今後は、「自己大」の授業支援者に偏った学ファシのファシリテータ像を組み直し、本来のファシリテータ像をもった上で、それに合った望ましい振る舞いが出来るようになる研修内容に変えていく必要があると考える。

第8期の「自己大」運営支援について、授業プログラムである「座談会」での発表に対して行う意味を見いだせない、自信がもてない等の声を学ファシから聞いた。このことから、第9期の『自己大』事前研修では授業内で行うアイスブレイク運営の練習時間を減らし「座談会」の準備、練習時間をつくった。内容を練る時間、練習時間をしっかりとったことで、「座談会」での発表が学ファシと受講生の両者にとって有意義な時間になることを目指した。

また、F 工房スタッフとして、第9期の『自己大』事前研修は第8期の『自己大』事前研修よりも一層「自己大」統括・副統括の先生方、初年次教育センターの事務方と協働しながら設計、運営が出来たと感じている。来年度の『自己大』事前研修も適切な協働関係を保ちながら進めていきたい。

2. FDに関する取組み

2-1.授業の見学

公開授業&ワークショップ 1件（現代社会学部1件）

受講生がレジュメへ書き込む量に緩急をもたせる工夫や、受講生に徐々に難しい作業をさせていく工夫によって、受講生が退屈しない授業設計がなされていた。また、当該授業の受講生は元気が良く、常に教室内がざわざわしているような状態であったが、そのような受講生に対し教員から「静かにください」という主旨のことは発せられず、むしろそのような受講生の反応を拾い、返事を返すという場面がみられた。受講生が不快感を抱かないようなコントロールをし、授業運営に支障が出ないようにしている教員の工夫は、F工場の授業支援でも取り入れたい。

2-2.「アクティブラーニング・パッケージ」の発行

今年度を予定していた「改訂版 アクティブラーニング・パッケージ」の発行を見送った（2年に1回の発行を予定しており、前回は平成28年度に発行した）。見送った経緯としては、前回の発行後に、授業手法は年々変化する中で「冊子」という形態をとることは情報として古くなっていくことや、文字上では読み手に十分に伝わらないのではないかなど意見があった。これらから「冊子」という形態から他の形態へ変化させた方が、より一層授業実践に関するノウハウ普及に繋がるのではないかなどという議論が起こったことが挙げられる。これについては今後も引き続き検討したい。

3. コンサルティング

■依頼件数：16件（依頼者内訳：教員7件、職員7件、学生2件）

≪プログラム種類別の内訳≫

1) 学内他部署との協働（8件）

	日程	プログラム名	依頼者	概要
1	3/28	新入生オリエンテーション	外国語学部	新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファシ派遣（11名）
2			理学部	新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファシ派遣（11名）、プログラム運営者（学ファシ、学部の先輩学生、教員）向け研修プログラムの運営
3	3/30		情報理工学部	同上（学ファシ派遣は9名）
4			文化学部	同上（学ファシ派遣は18名）
5	6/10	オープンキャンパス「学部ディスカバリー」	入学センター	高校生を対象としたオープンキャンパスイベントの設計支援および当日の運営支援
6	7/25, 27	オープンキャンパス「学部ディスカバリー」に向けたキャンパスツアースタッフ研修		キャンパスツアースタッフを対象とした研修プログラムの設計支援および当日の運営

7	12/19	ピア・サポーター研修	教学センター	ピア・サポーターを対象とした支援型リーダーシップを学ぶための研修会の設計支援および当日の運営
8	2/15, 28	追分寮・葵寮新班長研修	学生部	教育寮班長が寮の将来像を共有し、新年度の目標および具体的な行動計画を策定するためのワークショップの設計および当日の運営支援

2) 授業の支援 (6件)

共通教育科目				
	日程	科目名	依頼者	概要
1	4/6～7/24	自己発見と大学生活	初年次教育センター	初年次向けキャリア形成支援教育科目。全30クラス、15コマへの学ファシ派遣(49名)、学ファシ向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月～7月)における学ファシの活動支援
2	10/17～12/5	キャリア・Re デザイン	初年次教育センター	職員ファシリテータ1名の派遣

※「自己発見と大学生活」には学ファシを、「キャリア・Re デザイン」には職員ファシリテータを15回全ての授業に派遣した。

学部専門科目				
	日程	科目名	依頼者	概要
1	5/10	基礎演習	現代社会学部 教員	現代社会学部2年次生を対象としたファシリテーション研修プログラムの設計支援、全6回(13クラス・合計約300名)における研修の運営(すべて同一の内容)
	5/11			
	5/17			
	10/18			
	10/19			
	10/25			
2	5/24	プロジェクト演習	現代社会学部 教員	現代社会学部2年次生を対象としたファシリテーション研修プログラムの設計支援、全2回(6クラス・合計約50名)における研修の運営(すべて同一の内容)
	5/25			
3	6/8	演習1	経営学部教員	ゼミ生がディスカッションの能力を身につけるためのワークショップの設計支援・運営
4	11/16	演習2	経営学部教員	ゼミ生がファシリテーション能力を身につけるためのワークショップの設計支援・運営、学ファシ3名の派遣

3) 課外活動の支援 (2件)

No	日程	プログラム名	依頼者	概要
1	6/5 ～	ファシリテーショングッズ開発	むすびわざグッズ制作チーム	ファシリテーショングッズ開発のための相談対応、ファシリテーションのノウハウを有する教員・学生を集めてのブレインストーミング会の開催 (参加: 教員1名、学生2名、職員2名)
2	2/12	クラブリーダー研修会	志学会執行委員会	クラブリーダーを対象とした参加型研修会の設計相談への対応

《支援内容別の内訳》

支援内容	件数
ワークショップ・授業の設計支援 (事前相談のみ)	1
ワークショップ・授業の運営支援	14
その他	1

コンサルティングの合計件数は16件であり、見かけ上は昨年度と同数であった。しかし、現代社会学部におけるファシリテーション研修を合計8回実施したため、実際の授業支援回数は昨年度よりも増加した。

学内他部署との協働においては、昨年度に引き続き葵寮・追分寮班長に対して研修を行った。継続して関わりを持つことで、より正確にニーズを把握し、依頼者にとって適切な機会を提供できると感じた。今後も、研修が単発のイベントにならないよう、組織内にファシリテーションが実質的に定着するような支援を目指していきたい。

授業支援においては、現代社会学部と連携し、「基礎演習」「プロジェクト演習」の複数のクラスにおいてファシリテーション研修を実施した。受講生がファシリテーションの概略を知る機会は提供できたものの、今後の演習科目で発揮できるスキルとして定着したかどうかについては定かではない。今後は経過を観察しつつ、ファシリテーション研修のノウハウが学部に着定することを目指し、長期的な視点で支援を行いたい。また、経営学部「演習2」においては、学ファシがグループワークの観察役として授業に参画し、学ファシがアイスブレイクの運営者以外の役割で授業に貢献できる可能性を感じた。今後も学ファシ派遣の依頼を受けたケースに留まらず、あらゆるコンサルティングのケースにおいて学ファシが参画できる可能性を積極的に検討し、学ファシ参画の場を広げたい。

課外活動支援においては、「むすびわざグッズ制作チーム」の学生からファシリテーショングッズ開発の相談を受けた。最終的にグッズの開発には至らなかったものの、ファシリテーションノウハウを有する教員と依頼者をつなぐことができた。今後も、学内におけるファシリテーション関連の資源をつなぐ役割を果たしていきたい。

4. 学外での発表・講演

2018年11月17日(土) 摂南大学主催「第1回教育イノベーション研究会」参加

□成果・課題

「第1回教育イノベーション研究会」は摂南大学教育イノベーションセンターが開設された記念として開催され、様々な大学にて実施されているイノベティブな教育の取り組みについて共有がなされた。

京都産業大学F工房からは「初年次生向けキャリア教育ポータル科目『自己発見と大学生活』における学生ファシリテータ活動を通して得られた経験と学び」というタイトルでF工房コーディネーター1名と学ファシ1名が発表を行った。来場者からは特にF工房について多くの質問が寄せられ、関心を集めた。

自大学の取り組みを整理して発信し、来場者からの質問を受けたり、他大学の活動と比較したりすることで、客観的に自身の活動を捉えなおす機会となった。発表した学ファシは、他大学の学生と交流ができたことでモチベーションが上がった様子であった。

2019年3月3日（日） 第24回FDフォーラム ポスターセッション発表

□成果・課題

昨年度に引き続いて学ファシが主体となって、「学生ファシリテータの経験から生まれたもの～社会人生活にどのように役立っているのか～」というタイトルでポスター発表に参加した。来場者からは発表者の学ファシが活動に参画した動機や学ファシ養成の仕組み、「自己発見と大学生活」の授業運営支援などについて多くの質問が寄せられ、関心を集めた。発表した学ファシは、就職活動を迎えるにあたってこのテーマで調査・発表がしたいという思いがあり今回の発表タイトルとなった。自身の思いを形にすることができたことで満足できたとともに、就職活動に向けて気持ちを切り替え、頑張る姿勢が見られた。

5. 学外への調査

2019年2月23日（土） 摂南大学・関西大学共催 PAL フォーラム参加

□成果・課題

PAL (Peer Assisted Learning) とは、「学生が支援する学生の学び」を指す。学生の学びをサポートする学生アシスタントが中心となって開催されたワークショップフォーラムに参加した。他大学の学生アシスタントの動向を知ることができただけでなく、本学の学ファシの取組の特徴を再確認する機会となった。

以上